

● ラップボン SH-1

品番	オレンジ:SH1SE002JH	ベージュ:SH1SEB02JH
JANコード	オレンジ:4589922490671	ベージュ:4589922490688
価格	25,300円(税込)	
定格電圧	便座ユニット:DC12~16V ACアダプター:AC100V 50/60Hz	
定格消費電力	35W	
サイズ	幅376×奥行510×高さ400mm(組立サイズ) 幅170×奥行510×高さ410mm(梱包サイズ)	
質量	4.0kg(梱包時) / 3.2kg(製品質量)	
材質	胴体・台座・便座ユニット:ポリプロピレン 汚物袋:ポリエチレン 凝固剤:高吸水性樹脂	
対荷重	100kg	
販売	WEB限定商品(ECサイトのみで販売)	



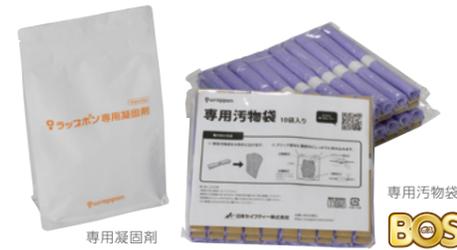
● ラップボン SH-1 専用バッテリーセット

品番	オレンジ:SH1SE003JH	ベージュ:SH1SEB03JH
JANコード	オレンジ:4589922490671	ベージュ:4589922490671
価格	36,300円(税込)	
セット内容	ラップボン SH-1一式、専用ハンディーバッテリー3300一式	

※ラップボン SH-1には消耗品30回分(汚物袋:30個 / 凝固剤:30袋)が付属しています。

● 専用消耗品セット 手動タイプ

品番	COSEFP01JH		
JANコード	4589922490664		
価格	4,950円(税込)		
材質	専用汚物袋:ポリエチレン / 高吸水性ポリマー		
セット内容	専用汚物袋(30個入) / 専用凝固剤(30袋入)		



● 専用汚物袋(30個入)

品番	WPF10030JH	価格	3,960円(税込)
JANコード	4589922490640	材質	ポリエチレン

● 専用凝固剤(30袋入)

品番	WPCP0030JH	価格	990円(税込)
JANコード	4589922490657	材質	高吸水性ポリマー

オプション

● ハンディーバッテリー3300

品番	BALPHB02JH	価格	17,600円(税込)
電池容量	3300mAh	JANコード	4589922490695
本体質量	約400g	出力電圧	14.4V
USB出力	DC5V Max2A	LED残量表示	3段階
適応規格	PSE	充電電池	リチウムイオンバッテリー
寸法	76×125×29mm		
充電時間	約4時間 ※1充電あたり使用可能回数:300回(連続使用)		
セット内容	バッテリー、ラップボン接続用コード、専用充電器		



● 専用DCケーブル SP5

品番	COCCSP5MS	価格	4,400円(税込)
JANコード	4589922490718	規格	DC12V
寸法	5m		



● お問い合わせ先

 **日本セイフティー株式会社**

ラップボン事業部

〒102-0082 東京都千代田区一番町21番地 一番町東急ビル11F
e-mail: wrappon@nihonsafety.com URL: http://www.wrappon.com

お客様相談窓口 ユーザーメールサポート

<https://wrappon.com/contact>



手動ラップ式簡易トイレ
“おうち避難トイレ”

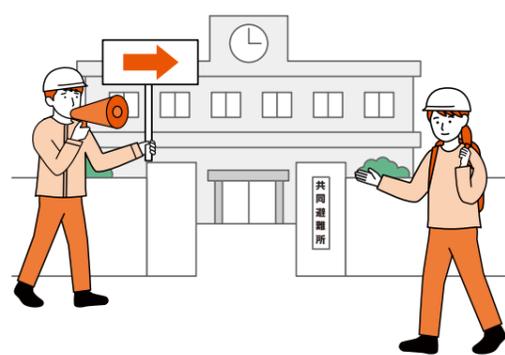
ラップボン SH-1



避難所から 在宅避難へのシフトを推奨!!

1家に1台、安心快適な災害用トイレを

日本は、災害大国と言われ昔から災害を多く経験してきました。
地震などの従来の災害に加えて温暖化による急激な気候の変動により、集中豪雨が各地で頻回に発生しており、過去にはなかった水害などの災害リスクも高まっています。
幾多の災害を乗り越えてきた日本ですが、近年では都市部を中心に避難所の収容定員不足が叫ばれ、加えて感染症の問題から在宅避難が推奨されつつあります。
避難所が中心だった現状から、在宅避難へとシフトしている中で、災害時のトイレも各家庭で用意する必要が高まってきました。
日本セイフティーが今まで培った個別密封のラップ式技術はそのままに、各ご家庭でも気軽に備蓄でき、災害時には安心して使用できるように開発されたのがラップボン SH-1です!!



これからは



避難所

災害発生時に、被災者等が一定期間避難生活をする施設のことを指します。

メリット

- ・自治体による備蓄準備(トイレ・食料など)
- ・助け合いができる

デメリット

- ・共同生活による気疲れ
- ・定員不足
- ・感染症問題

在宅避難

災害で家屋が大きな損傷を受けず、食料やライフラインなど2週間分の十分な備えがある場合に自宅で避難生活を送ることを指します。

メリット

- ・慣れている場所での避難生活
- ・プライバシーが保持できる

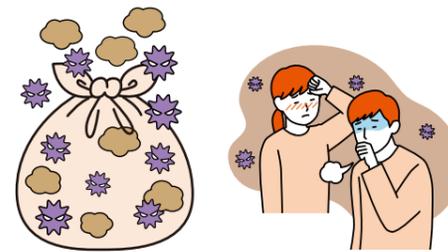
デメリット

- ・十分な備蓄準備が必要
- ・自己責任



すべての人が安心・快適な在宅避難ができるように

携帯トイレの大きな問題



- ・トイレゴミから悪臭が部屋中に広がる
- ・漏れた細菌により感染症に

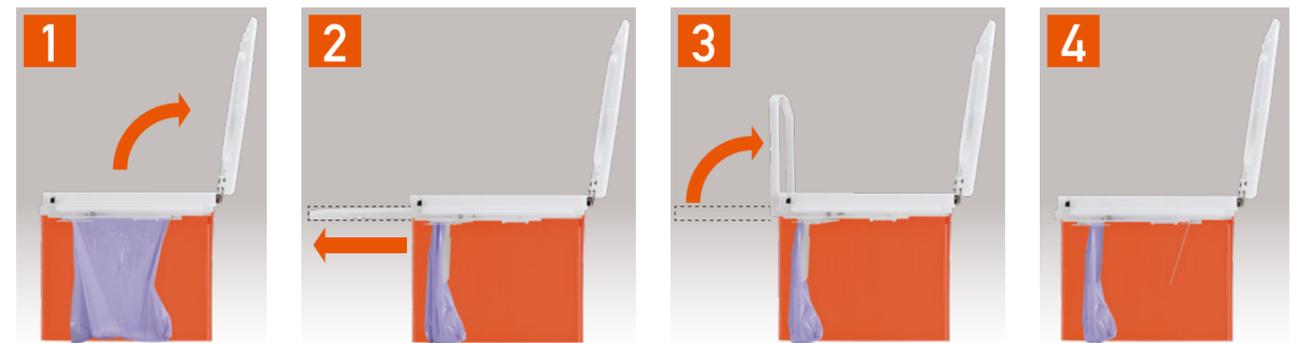
ラップボンで問題解決



ラップボンの熱圧着方式で悪臭も菌も密封。
手を直接触れずに密封するので、衛生的&清潔!

どうやって密封するの?

ラップボンは水を使わず、熱圧着によって排泄物を1回毎に密封します。
毎回、密封個包装をするので、清潔にご使用いただけます。また、排泄物(汚物)は個包装になっているので、後処理の手間もなく、お手入れも簡単です。本体は、繰り返し使用することができるので経済的です。



1 便座を上げます。

2 レバーを引き、汚物袋を寄せます。

3 レバーを上げ、熱圧着をします。

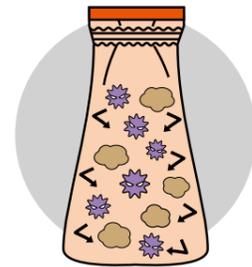
4 終了音が鳴ったら、レバーを戻し、密封完了です。

SH-1だからできる安心機能

臭いや菌を漏らさない汚物袋

特殊な防臭フィルム(BOS)製の汚物袋と熱圧着により臭いや菌を外に漏らしません。^{※1}
また、密封する事で汚物や吐しゃ物による二次感染を予防します。

※1 ラップホンは臭いや感染を100%防ぐものではありません。



かんたん後処理

汚物袋は、ポリエチレン素材のため焼却しても有害なガスは発生しません。
密封された汚物袋は紙オムツと同様の処理が可能です。^{※2}

※2 自治体の判断によって処理方法が異なる場合もございますので、各自治体の指導に従い処理してください。



持ち運び便利

総重量4キロと非常に軽量です。
箱に取っ手もついているため、簡単に持ち運べます。



コンパクト収納

箱に収納した時のサイズは、
170mm×510mm×440mm
と保管場所を取りません。



耐荷重100kg

大きな体の方も安心して、ご使用いただけます。

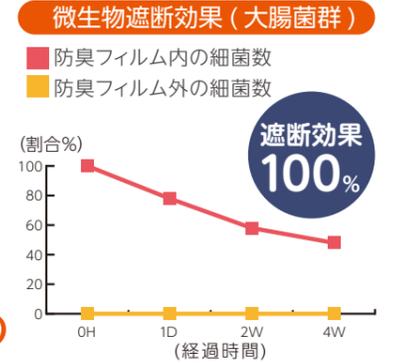


繰り返し使用可能

本体部分(胴体+台座+便座ユニット)は繰り返しの使用が可能です。
経済的に長期的な備えができます。



特殊な防臭フィルムの信頼の試験データ



ラップ済み袋の試験を行い、微生物(細菌)の遮断効果を確認しています。
菌が漏れることがないため、二次感染の予防に役立ちます。

便利なオプション品

停電時や電源が無い場所でも使用できるように、専用バッテリー(フル充電時300回)と車のシガーソケットから電源が取れる車用DCケーブルをオプション品としてご用意しています。



4ステップの簡単組立



1 胴体を広げます。

2 台座を組立て、胴体の中に入れます。

3 便座ユニットを設置します。

4 電源プラグを差し込み完成です。

使い方はとっても簡単



1 便座を上げて、汚物袋をセットし、便座を戻します。

2 凝固剤を汚物袋に入れ、排泄をします。

3 便座を上を持ち上げ、レバーをゆっくりと引き上げます。熱圧着の開始を知らせるビッと音が鳴ります。

4 熱圧着完了のビッビッビッと音が鳴ったら、レバーをゆっくり押し戻し、ラップ済み袋を取り出してください。

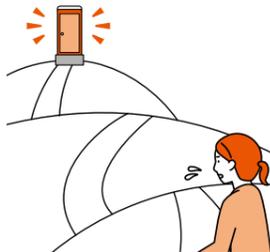
災害時のトイレ事情

都市部の避難所不足や感染症問題を背景に、避難所から在宅での避難が推奨されています。
 災害が起こっても、人は生きていく限り、排泄を行います。発災後、6時間以内に50%以上の人
 がトイレに行きたくなくなったというデータもあります。トイレは、生活していくための必需品です！
 断水や、倒壊・停電などで水洗トイレが使えなくなってしまった時の簡易トイレの備蓄は済んでいますか？
 災害時、安全・安心な在宅避難生活を送るためには水や食料と同様に簡易トイレの備蓄も重要となります。

災害時にトイレが使用できなくなってしまうケース



トイレが破損した場合



近くに仮設トイレがない場合



下水処理が不能になった場合



停電の場合

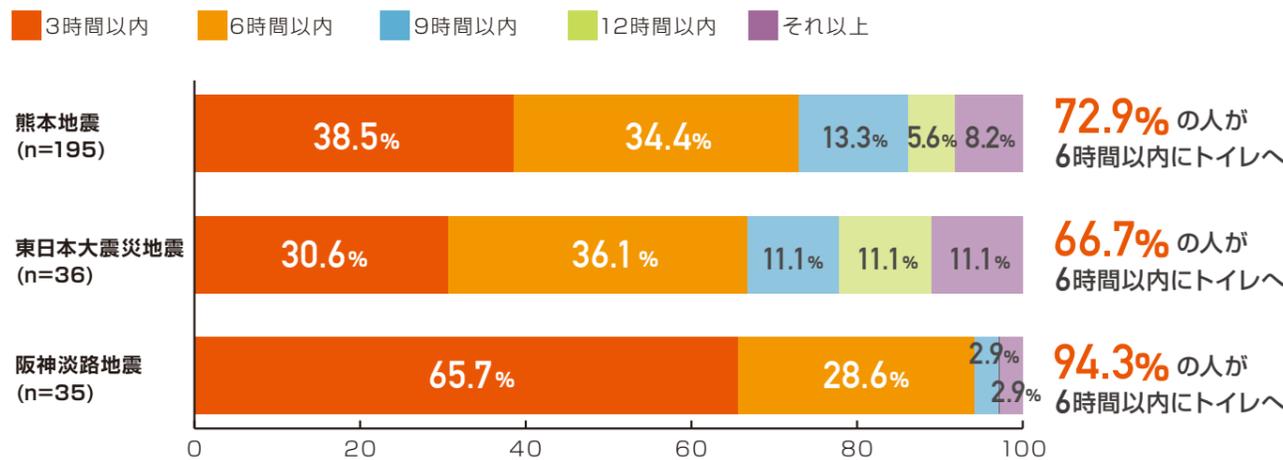


トイレのドアが開かない場合



トイレの水が流せない場合

発災後にトイレに行きたくなくなった時間



参照:災害対策トイレ情報ガイド2019(特定非営利活動法人日本トイレ研究所)を元に作成
 調査:阪神淡路大震災・尼崎トイレ探検隊 / 東日本大震災・日本トイレ研究所 / 熊本地震・岡本明子(大正大学人間学部人間環境学科)

大切な命を守りたい 災害関連死ゼロへ

災害関連死とは

地震や津波など、災害による直接的な被害で亡くなるのではなく、避難生活を続けるなかで体調を崩し、病気の発症や持病の悪化などで亡くなることを指します。

熊本地震の災害関連死者数

2016年4月14日(前震)・4月16日(本震)に発生した「熊本地震」においては、死者数270名と甚大な被害をもたらしました。このうちの直接死者数は50人で、災害関連死者数は220人。なんと災害関連死者数の割合は81.4%にも達します。じつに8割もの人が、直接死ではなく、その後の避難生活中に起きた問題によって亡くなっています。



死者数 270人
 直接死者数 50人
 災害関連死者数 220人

(熊本県熊本市「平成28年熊本地震等に係る被害状況について【第288報】」平成31年3月13日16時30分発表)

トイレ問題は、災害関連死に繋がる疾患を引き起こす大きな要因の1つです!!
災害時トイレを我慢することが原因で体調を崩し、死亡リスクが高まることも!

災害時は水洗トイレの機能停止により、トイレ環境が悪化(くさい、汚い、暗い、怖い、不衛生等)します。環境の悪化により、トイレに行きたくないために、水分の摂取を控えます。水分だけでなく、大便を催したくないために、食事自体を控えることもあります。これが災害時のトイレの“負の連鎖”の始まりです。

災害時のトイレの負の連鎖

